

# Relationship between the Kihon Checklist and the clinical parameters in patients who participated in cardiac rehabilitation

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 國本, 充洋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002274">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002274</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2052 号

The relationship between the Kihon Checklist and the clinical parameters in patients who participated in cardiac rehabilitation

(心臓リハビリテーション患者における基本チェックリストと臨床指標との関連)

國本 充洋 (くにもと みつひろ)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文では、高齢者に対するフレイル判定として使用される基本チェックリストを、心臓リハビリテーション施行患者（以下心リハ患者）に対して応用し、フレイル判定及び基本チェックリストスコアと運動耐容能を含む臨床指標との関連について検討した。これまで、身体機能、栄養状態を客観的なデータで示し、また、フレイル評価法と運動耐容能との直接的な関連を調べた研究は少ない。本論文では、基本チェックリストスコアと運動耐容能との有意な関連を認め、基本チェックリストスコアが運動耐容能を規定する独立した因子である事を始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

フレイルは、心血管疾患のリスク因子であり、その評価法として、Fried らのフレイル基準が一般的に用いられているが、国際的に標準化された評価方法は存在しない。本邦で使用されている自記式質問票である基本チェックリストは、フレイルの重要な要素である、身体機能、栄養状態、社会活動、認知機能、抑うつ気分に関する質問を包括的に含み、握力などの特殊な検査を必要とせず、非フレイル、プレフレイルそしてフレイルの3段階で評価し、且つ簡便に行うことができる。

本研究結果において、プレフレイルから段階的な全身の筋量低下や歩行距離低下を示し、基本チェックリストが心リハ施行患者に対してもフレイル判定に有用であると考えられた。また、フレイルは老年症候群と考えられているが、50歳代においてもフレイル群で有意な身体機能の低下を認め、心リハ患者では早期に身体機能変化が現れる可能性を示唆した。そして、基本チェックリストスコアが心肺運動負荷試験で得られる最高酸素摂取量に対する独立した因子である事を示した。日常臨床に基本チェックリストを取り入れることで、心リハ患者のフレイルリスクの層別化とフレイルに対する早期発見介入につながる可能性が示唆された。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。